



2023年3月29日

各位

会社名 株式会社 ビーグリー
代表者名 代表取締役社長 吉田仁平
(コード番号: 3981 東証プライム)
問合せ先 経営企画室長 三吉達治
(TEL. 03-6706-4153)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月24日に、プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。2022年12月時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2022年12月末時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、その推移を含め、以下のとおりとなっており、「流通株式時価総額」については依然として基準を充たしておりません。当社は、下記のとおり、流通時価総額に関して、2025年12月期末までに上場維持基準を満たすための取り組みを、引き続き進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)	1日平均 売買代金 (億円)
当社の適合状況 及び その推移	2021年6月末時点 ※1	6,789	43,485	61.3	70.4	5.18
	2022年12月末時点 ※2	6,751	35,053	45.4	56.2	0.6
上場維持基準		800	20,000	100	35.0	0.2
適合状況		○	○	×	○	○
計画書に記載した計画期間				2025年12月末		

※1 当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が移行基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等を基に算出を行ったものです。

※2 当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が当該基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等を基に算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取り組みの実施状況及び評価

当社は、2021年12月24日に公表しました「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」に記載のとおり、2022年2月14日に公表しました「新中期経営計画(2022-2024年度)(以下「新中期経営計画」)」推進による業績向上を着実に進めるとともに、株主還元施策に取り組み、企業価値の向上並びに時価総額の向上を図ってまいりました。

2022年12月期は、連結売上高187億円、連結営業利益17.5億円と、4期連続での増収増益を実現し、適合計画は着実に進捗していると評価をしております。しかしながら、2022年12月末時点の流通時価総額は45.4億円と移行基準日時点での流通時価総額を下回りました。これは、2021年12月に日本テレビ放送網株式会社(以下、「日本テレビ」という。)による株式取得が完了したことを受け流通株式比率が大きく低下したことが大きく影響しております。また、時価総額が増加していないことに関しましては、特別損失の計上により親会社株主に帰属する当期純利益が業績予想を下回ったことにより、1株当たり当期純利益も業績予想を下回ったこと、日本テレビとの取り組みの具体化に時間を要したことが要因と考えております。

「新中期経営計画」の進捗並びに、株主還元施策に関する実施状況は、以下のとおりです。

① 「新中期経営計画」の進捗

当社グループはVisionである『グローバルで通用する「コンテンツプロデュースカンパニー」へ』のもと、「コンテンツプロデュースカンパニー」としての成長を方針として掲げ、以下記載の3つの戦略を推進することで「新中期経営計画」の最終年度である2024年12月期において、連結売上高200~240億円、連結営業利益21.5~24.0億円、連結当期純利益12.0~13.5億円の達成を目指しております。

(1) グループ成長を支える基盤としての『まんが王国』の安定成長

2022年度の電子書籍市場は、新型コロナウイルス感染症拡大による巣籠り需要の特需やその落ち着き、海賊版サイトの影響拡大がありながらも、拡大を続けている一方で、競合他社との競争激化により、市場環境は厳しいものとなっております。その中で、『まんが王国』では、ビッグデータの分析等による運用業務の高度化を土台として、2020年から取り組んでいる“お得感戦略”にさらに磨き上げるとともに、『まんが王国』だから読める魅力的な作品を創出・提案し、ロイヤルカスタマーを獲得・定着・育成を行ってまいりました。

その結果、第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で、「お得感No.1」(最もお得に感じるサービス第1位)を獲得するとともに、コミック単行本換算で累計18億冊ダウンロードを超えるまでに拡大を続け、会員数は700万人(2023年2月時点)を突破いたしました(累計ダウンロード数は、無料タイトル及びコマ形式のタイトルを冊数換算したものを含んでおります)。

これらの取り組みにより、『まんが王国』の2022年12月期の売上高は前年比2%増と市場全体が厳しい環境の中で、着実な成長を実現いたしました。

2023年12月期においても、引き続き“お得感戦略”のさらなる深化を進め、着実な成長な売上成長を目指してまいります。

(2) コンテンツ創出力の強化とメディアミックスの実現

当社は、業績の向上及び『まんが王国』の差別化のため、総合出版社であるぶんか社のグループ資産を活かしたコンテンツ創出力の強化とメディアミックスの実現を推進しております。

2022年12月期においては、作品創出力の増強のため編集人員の強化・育成を進めるとともに、『まんが王国』にて蓄積されたデータを分析し、作品創出に生かす取り組みを行ってまいりました。

その結果、『まんが王国』においては、2022年7月に配信開始した当社オリジナル作品である「宝石の娘と異能の王子」が2022年総合ランキングで1位を獲得いたしました。さらに、ぶんか社においては、得意とする女性向け作品における既存のジャンルに加え、より幅広い読者を対象としたライトノベル、ライトTL、ライトレディースといったジャンルの展開を進め、それぞれのジャンルでヒット作品を生み出しました。

日本テレビとの取り組みにおいては、2022年9月に同社が運営する2.5次元俳優のYouTubeチャンネル「ぼくたちのあそびば」のコミカライズを配信、2022年10月～12月には漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」の第2弾を番組内で放送し、オーディション合格者が作画を務める「ようこそ！パラダイス劇場へ」の配信を開始する等、グループ間のシナジー創出に努めてまいりました。

メディアミックスにおいては、2022年1月には人気作品「義母と娘のブルース」を原作とする新年スペシャルドラマが放送され、2022年1月から3月にかけて、スマートフォン向けコミックサイト「マンガよもんが」にて連載中の「部長と社畜の恋はもどかしい」を原作とするテレビドラマが放送されました。

2023年12月期においても、引き続き作品創出力の増強のため編集人員の強化・育成を進め、ヒットコンテンツの創出、メディアミックスの積極推進に努めてまいります。

(3) 海外展開

当社は、将来的に、海外展開を第3の柱とすべく、2022年12月期においては、英語版（北米向け）のテストローンチに向けた開発並びに、当社オリジナルコンテンツのローカライズを進めてまいりました。

2023年12月期においては、引き続きテストローンチに向けた開発の推進、グループ資産の活用や出版社の許諾獲得を進め、2023年上期よりテストローンチを開始する計画です。また、2024年中に正式ローンチを開始する計画です。

② 株主還元施策

「新中期経営計画」に記載のとおり、当社は、中長期的な事業拡大、リスク対応等のための内部留保に配慮しつつ、重点分野への投資を実行しながら、株主還元を実施するため、配当性向10%以上を掲げております。

2021年12月期より一株当たり8円の期末配当を開始し、2022年12月期においては、一株当たり12円の期末配当を実施いたします。引き続き、利益の拡大を実現し、配当額の引き上げに努めてまいります。

【配当の状況（一株当たり）】

2021年12月期(実績)：8円（配当性向10.7%）

2022年12月期(実績)：12円（配当性向10.8%）

2023年12月期(予想)：15円（配当性向10.0%）

3. 上場維持基準に適合していない項目についての課題と取り組み内容

当社は、一定数の株式数や流通株式数を維持しておりますが、流通株式時価総額の基準を充たしていない理由は、主要な要素である株価が低迷しているためであると考えており、企業価値の向上と株式市場で適切な評価を得ることが課題であると認識しております。

具体的には「2. 上場維持基準の適合に向けた取り組みの実施状況及び評価」に記載のとおり、1株当たり当期純利益の増大、日本テレビとの取り組みによるシナジーの具現化が課題です。この課題に対し、引き続き「新中期経営計画」に基づく取り組みを推進し、企業価値向上をはかるとともに、株主還元施策に取り組むことで、上場維持基準への適合を目指してまいります。

以 上